2022 5.30 vol.999

JA全農ウィークリー WEEKLY

8面

全農チビリンピック小学生選抜サッカー決勝大会

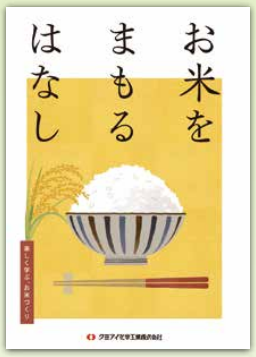
鹿島アントラーズつくばジュニアが優勝（広報・調査部）

6-7面

トップランナーインタビュー

ファームサイド㈱ 佐川友彦氏（広報・調査部）

創刊した全農グループ広報誌「Minorinote」（4面）



冊子「お米を まもる はなし」公開（3面）

優勝した鹿島アントラーズつくばジュニア（8面）

2 「甲州牛・甲州ワインビーフ推進協議会」発足（山梨県本部）

コープみらいブロック委員全体会で講演（営業開発部・米穀部）

3 農薬の役割を紹介する冊子を公開（耕種資材部）

「AgLab Monthly」を発行（経営企画部）

4 全農グループ広報誌「Minorinote」創刊（広報・調査部）

5 JAズームイン（山形：JA庄内たがわ）

8 JAタウンショップ紹介 あぐラボショップ

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

「飛騨ほうれんそうの胡麻和え」セブン-イレブンで再び商品化（岐阜県本部）

「JACCネット」の家畜疾病関連資料が充実（畜産生産部）

News!

「甲州牛・甲州ワインビーフ推進協議会」発足

販売力、生産基盤拡大強化目指す

山梨県本部

山梨県本部が事務局を務める「甲州牛出荷組合」は、「甲州ワインビーフ推進生産普及組合」と合併し、令和4年4月から「甲州牛・甲州ワインビーフ推進協議会」として発足しました。

今回の合併により、交雑種の「甲州麦芽ビーフ」は全頭が「甲州ワインビーフ」に銘柄移行となりました。

また、甲州ワインビーフのロゴマークは、字体や配色がより目立つようにデザインを一新し、山梨県本部が商標権を取得しました。

現在、協議会の会員は世代交代が進み、新規就農者の加入も増加傾向にあります。今後は県内2大銘柄である黒毛和種の甲州牛と交雑種の甲州ワインビーフの販売力、生産基盤拡大強化について今まで以上に注力し、ブランド価値をさらに高めていきたいと考えています。また、各会員の農地視察や意見交換会を適宜実施し、協議会会員の横のつながりも強化していきます。

協議会発足後初のせり

甲州ワインビーフロゴマーク

News!

コープみらいブロック委員全体会で講演

日本の米作りの状況や課題伝える

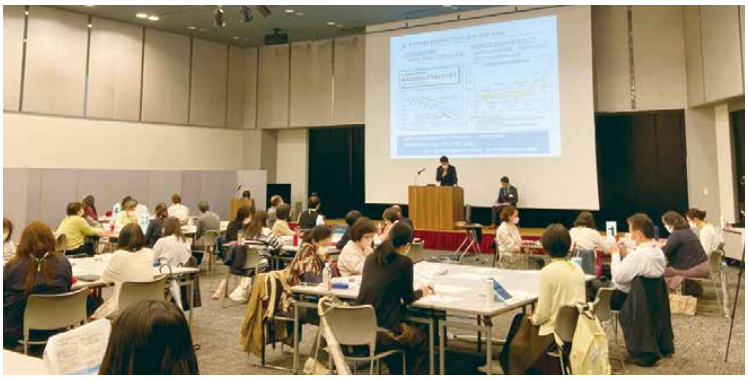
営業開発部・米穀部

全農は4月14日、東京・秋葉原で開催されたコープみらいの「2022年度第1回ブロック委員全体会」で、日本の米づくりの状況と課題について講演しました。

コープみらいは組合員数が363万人を超える生協で、全農グループ各社が多くの商品を供給しています。同大会は2022年度のスタートにあたり、コープみらいの活動方針をブロック委員（組合員）と役職員が共有する場として、会場とウェブの併用で開かれました。

400人を超える組合員が出席する中、米穀部事業企画課の藤田課長が福島の専業農家で生まれ育った実体験を交えながら、「日本の米づくり事情と課題について」のテーマで講演しました。出席者からは「現在のお米作りの状況や課題をぜひ組合員のみんなへ伝えたい」「お話を聞いて、ますます積極的にお米を食べようと思った」などの声をいただきました。

続けてコープデリ連合会からも「〝食べて未来へつなごう 日本の米づくり応援キャンペーン〟とコープデリお米の供給動向について」のテーマで講演があり、「お米を食べて持続可能な農業を守ろう」とのメッセージが発信されました。



米づくりの講演もあったブロック委員全体会

News!

農薬の役割を紹介する冊子「お米を まもる はなし」を公開

クミアイ化学工業のコーポレートサイトで公開、冊子の配布も実施

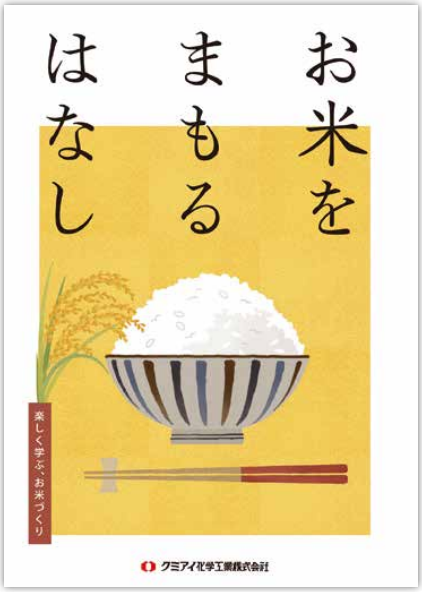
耕種資材部

全農が出資しているクミアイ化学工業㈱は、「農薬の必要性・安全性に関する啓発活動」の一環として、農薬の役割を紹介する冊子「お米を まもる はなし」を作成し、小学校への配布やコーポレートサイトでの公開を行っています。

「お米を まもる はなし」は、お米作りの過程を通じて農薬の役割について、漫画を交えて分かりやすく解説しています。対象は小学5年生ですが、大人が読んでも米作りや農薬について学べる内容で、関係する教育者やその親世代をはじめとする一般消費者への波及効果も狙っています。

クミアイ化学工業では、農業・農薬に関する正しい知識の啓発、イメージの改善により、農業従事者の皆さまに自信をもって農薬を使用していただける環境をつくり、誇りをもって農業に従事していただくことで日本の農業を盛り上げる後押しにつながれば、という思いを込めてさまざまな活動を行っています。

「お米を まもる はなし」は同社のコーポレートサイトで閲覧できるほか、冊子も配布しています。



冊子「お米を まもる はなし」

ウェブ版はこちら

配布をご希望の場合はクミアイ化学工業まで（電 03-3822-5036）

News!

「AgLab Monthly」を発行

ラボの活動や起業家の取り組み伝える

経営企画部

全農を含むJAグループ全国連が設立したAgVenture Lab（アグベンチャーラボ、略称あぐラボ）は、JA役職員に向け「AgLab Monthly（あぐラボ マンスリー）」を発行します。あぐラボの取り組みや、「食・農・金融・くらし・地方創生・SDGs」に関わる社会課題の解決に取り組む起業家を紹介します。

あぐラボは、全農とJA全中、JA共済連、農林中央金庫、家の光協会、日本農業新聞、JA全厚連、農協観光が設立したJAグループのラボです。

「次世代に残る農業を育て、地域のくらしに寄り添い、場所や人をつなぐ」をキャッチフレーズに、起業家や民間企業、大学、行政などと連携し、新しい技術やアイデアを活用しながら、新たな事業創出、サービス開発、地域課題の解消を目指しています。

あぐラボは2019年設立以来、多くの方に活用いただいていますが、ラボの活動や起業家の取り組みをもっと知ってもらいたいと考え、JA役職員に向けて、あぐラボのHPからあぐラボ マンスリーを発信していきます。また、楽しい情報をお届けしますので、あぐラボのSNSをフォローしてください。

JA役職員向けに発行した「AgLab Monthly」

あぐラボ マンスリーはこちら

Minorinote みのりのおと

全農グループ広報誌「Minorinote」創刊

全農グループ従業員のエンゲージメント向上とコーポレートブランド強化へ

全農は5月16日、全農グループ広報誌「Minorinote（みのりのおと）」を創刊しました。年に4回（春夏秋冬）の発行予定です。

【広報・調査部】

「Minorinote」の表紙

全農パールライス（株）の若手社員のランチミーティング

和牛が食卓に届くまで～和牛業界のお仕事拝見！～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、リモートワークの増加や対面での対話が困難になるなど、社内・グループ内でのコミュニケーションの希薄化が進み、従業員の勤め先への関心が薄くなっていると言われています。このような中、従業員の勤め先との関係性低下を懸念し、社内コミュニケーションの強化に取り組む企業も多くなっています。

全農は、全農グループ内広報を強化するため、全農グループ広報誌「Minorinote」を発行し、グループのコーポレートブランド強化や、グループ従業員のエンゲージメント向上、グループシナジーの発揮による業績への貢献、全ステークホルダーとのコミュニケーション強化などを目指し、全農グループ全役職員2万7500人超への配布用に冊子版を、また、「オープングループ広報誌」としてWEB版を発行しました。

紙媒体は一般的に閲覧率が高く、まとまったメッセージを効果的に伝えることや、インターネットを業務で使用しない職員や社員へも伝えることができ、さらに従業員が冊子を持ち帰ることで家族なども閲覧できます。

WEB版はどなたでも見ていただけるオープン方式とし、取引先や消費者へ従来の広報活動や事業紹介では伝えきれない全農グループ従業員、特に若手から中堅の従業員へ焦点を当てた内容とし、全農グループへの共感につなげます。また全農グループへの就職希望者へ向けて社風や従業員の思いなどを伝え、採用活動への貢献を目指していきます。

創刊号は、俳優の工藤阿須加（あすか）さんのインタビューや、全農パールライス（株）の若手社員ランチミーティング、和牛が食卓に届くまで多様な仕事を通じて生産者の思いをつなぐ全農グループ従業員6人の座談会など、さまざまな記事を掲載しています。

WEB版はこちら

JAズームイン

庄内産園芸特産物の規模拡大とブランド化に向け一丸

JA庄内たがわ（山形県）

概要	令和3年3月31日 現在
正組合員数	1万1287人
准組合員数	7434人
職員数	420人
販売品取扱高	125億2千万円
購買品取扱高	37億1千万円
貯金残高	1153億7千万円
長期共済保有高	4275億2千万円
主な農産物	米、柿、花卉、シイタケ

「庄内柿」の有利販売を図る最新の選果施設

山形県のJA庄内たがわは、広大な稲作地帯「庄内平野」での水稲栽培、地形の高低差や気候を利用した野菜・果樹の生産を盛んに行っている他、100年以上の歴史を持つ「庄内柿」は県内生産の約8割を占める主要産地となっています。地域と共に「豊かな農（みのり）」「豊かな生活（くらし）」「豊かな大地（つち）」を実現するため、期待と信頼に応える新たなJAを目指しています。

関係機関と緻密に連携「庄内柿」を有利販売

JA庄内たがわ庄内柿生産組織連絡協議会・JA全農山形・庄内柿振興協議会が緻密に連携し、「庄内柿」の知名度向上と有利販売を図り消費宣伝や産地周知に力を入れています。例年、主要取引先である北海道の市場担当者を招き、園地視察と意見交換会を実施し、栽培指導・販売方針の検討につなげています。情報交換を一層密にし、高品質・計画的出荷と企画販売の拡大に努めるとともに「安心・安全・信頼」を消費者に伝える「産地の顔が見える」消費展開を行っています。

箱詰めした「庄内柿」

画像選果機導入による栽培規模拡大と労力軽減

県内有数のキュウリ産地・鶴岡市櫛引地域では令和3年3月に総面積約90アールの新規キュウリ団地が完成し、栽培規模拡大による出荷調製作業での労力軽減を実現するため、櫛引地域のJA青果物集出荷所に画像選果機を導入。自動で等階級別に選別できる機能の他、箱詰めや品質チェックが行われる搬送ラインも設けています。8年度までに出荷量400トンを目指しています。

青果物集出荷所に設けたキュウリ搬送ライン

芳醇な月山ワイン全国へ発信

出羽三山の霊峰「月山」の麓特有の気温差を利用し加工用ブドウを栽培しています。JAオリジナルワイン「月山ワイン」の加工に着手し、その味わいは全国で高評価を得ています。月山ワイン山ぶどう研究所では、フルーティーな甘い香りが特徴の「マスカットベリーA」を使用したワイン「ソレイユ・ルバン　ベーリーAフリッザンテ」を新発売。また、一升瓶ワイン「村民還元」（白・ロゼ）を7年ぶりに再発売するなど、食卓へ彩りをお届けしています。

JA庄内たがわは、これからも生産者と連携しながら特産品の有利販売とブランド化を目指した取り組みを続けていきます。

再発売した一升瓶ワイン「村民還元」

トップランナーインタビュー
Top Runner Interview

生産者と共に経営改善に取り組む〝農家の右腕〟

ファームサイド㈱　代表取締役　佐川友彦氏

2014年に栃木県宇都宮市にある阿部梨園に参画し、阿部代表の右腕として経営改善に取り組んだ佐川友彦氏。そのときの改善事例をウェブサイト「阿部梨園の知恵袋」や、自身の著書で多くの人に伝えています。全国各地で講演やセミナーでも活躍されている佐川氏に、お話を聞きました。【広報・調査部】

――2020年9月に上梓された「東大卒、農家の右腕になる。～小さな経営改善ノウハウ100～」の反響はいかがでしたか。

全国の生産者さんを中心に好意的に受け入れていただきました。著書のおかげで私が農業界にどのように貢献したいと思っているか、理解してもらえるようになったので、より本質的な生産者さんの課題解決に協力できるようになったのが、とても大きかったです。

経営改善のノウハウを詰め込んだ佐川氏の著書（ダイヤモンド社、1800円＋税）

――生産者さん以外からの反応は？

農協や自治体の農業系の職員さんには、目に見える課題に対応するだけでなく、見えていない課題に対しての解決策を提案するのも自分の仕事だと捉えた人も。不定形の課題をどうやって見つけ、解決可能な形にして、実際に介入しサポートしていくかというのは、学校で教わるものでもないですし、現場のリアル感や生産者さんの心情をくみ取った上での総合判断になります。この本を読んで、今まで生産技術のみを指導していた人が農業経営も学び、自ら踏み込んで課題解決に協力したり、本質的なニーズを掘り当てられるようになったという話も聞きます。あとは農業界に限らず、次世代経営者や後継ぎ候補の方が、事業承継の取り組みの一つとして読まれていたりしているようです。

――講演活動ではどのようなテーマ設定が多いですか？

一番多いのは、阿部梨園での事例と経営改善の進め方ですが、最近では農園の中の組織づくりやマネジメントなど多岐にわたりますね。こちらから提案していきたいテーマとしては、「課題解決」や「仮説検証」など

もあります。一般的なフレームワーク（課題解決の方法論）を農業経営や生産者さんの感覚に落とし込んだ課題解決ノウハウをこれから体系化していきたいと思います。

TACパワーアップ大会2021で基調講演する佐川氏

――阿部梨園に参画して8年。最初に異業種から入ってきた頃と今とでは、感じている課題感は変わってきていますか？

8年前、私を受け入れてくれた代表の阿部はすでに経営に対する課題意識と解決への意欲がある状態でしたが、今、課題を抱える生産者さんはまだその心理状況ではない人の方が多いと思います。知識を伝えるだけでなく、経営に向き合う「気持ちのスイッチを押す」こともセットで取り組んでいかないと、課題解決は進まないということは梨園以外の多くのケースに触れながら強く感じています。

――農協職員や行政の指導員らが生産者のスイッチを入れる手法はあるのでしょうか？

誰かの力になろうと思ったらその人の未来や将来を本人より真剣に考えるということが、一番心を開くアプローチだなと感じています。もちろん指導員自らのスイッチが入っているというのが必須条件です。

――「農業界に農家の右腕を増やす」という目標を持たれていますが？

昨年、全農のTACパワーアップ大会に講師として呼んでもらい、立場は違いますがTACの皆さんはまさしく右腕仲間で、その道の大先輩だと感じました。

右腕に大切なのは、プロとして本気で支援することはもちろん、相手の立場に立って想像力を働かせた提案をすることだと思います。そして課題解決のために答えが出るまで考え抜く思考力、手持ちの解決手法だけではなくあらゆるものを総動員する創造力も役に立ちます。

JAさんは私のような個人と違い、組織力があります。部会やグループ単位でも課題解決を進めていけば、一対一の支援では実現できないような相乗効果や共通認識が生まれ、組織や集団としてレベルアップできます。JAだからこその事例を一緒につくっていけたらと個人的に期待しています。

――TACをはじめて15年経ちました。今後ファームサイド社とTACが連携していくことも多いかと思います。

TACでいろいろなデータベースや課題解決のノウハウなど、蓄積が山のようにあると聞いています。それをいかに有効活用していくか。TAC版課題解決フレームワークを、TACと生産者と弊社で一緒になって作るのも一つだと思います。ノウハウや情報など共通化できるものは共通化し、とことん効率をあげていく。生まれた余裕で個別支援を厚くするのが理想です。そのお手伝いができればうれしいですね。

TACができたときと今とで、担い手の姿も違うでしょうし、JAの置かれた状況や社会環境も変わってきていると思います。積み重ねてきた経験や知識をまとめ、さらにいい形にしていく――全国であれ地区単位であれ、TACのリブランディングの必要があるのであれば、これまでの知見を総動員してお力になります。

全農ウィークリー 2020年9月21日号のインタビューはこちら

ファームサイド㈱のサイトはこちら

ごちそうさまのカタチ
JA全農提供 BSフジ(BS8チャンネル)
全国各地でスポーツや芸術などを頑張る子どもたちを地元の特産品で応援！
毎週水曜21:55～22:00(再放送は毎週火曜22:55～23:00)

JA全農チビリンピック2022
JA全農杯 全国小学生選抜サッカー決勝大会

優勝は鹿島アントラーズつくばジュニア

全農は5月3～5日、神奈川県横浜市の日産スタジアムで「JA全農チビリンピック2022 JA全農杯 全国小学生選抜サッカー決勝大会」を開催しました。全国の地区予選を勝ち上がった強豪16チーム約320人の子どもたちが集結し、白熱した試合を展開しました。【広報・調査部】

優勝した「鹿島アントラーズつくばジュニア」

決勝戦は、「鹿島アントラーズつくばジュニア」(関東・茨城)が、2-0で「高部JFC」(東海・静岡)を破り、小学生サッカー日本一となりました。準決勝からは大会アドバイザーの北澤豪さんの解説とともに、今回初めての参加となる元なでしこジャパンの大竹七未さんもベンチリポーターとして大会を盛り上げました。大竹さんは「大人顔負けのプレーだったり、ボールタッチが細かく、技術が高くてびっくりしました」とコメントしました。試合の模様はYouTubeでアーカイブ配信中です。また、地区予選や決勝大会のハイライトシーンなどをTikTokでも配信中です。

入賞チームには、全農から副賞として岡山県産米「きぬむすめ」、岡山県産「マスカット・オブ・アレキサンドリア&ピオーネ」、「黒毛和牛三角バラ・ロース焼き肉用」を、全チームには参加賞として神奈川県産のジュース「みかん畑」や各社提供品などを贈呈しました。

熱戦を展開した決勝戦

北澤さんと大竹さん

試合結果

順位	チーム名	代表地区・県
優勝	鹿島アントラーズつくばジュニア	関東・茨城
準優勝	高部JFC	東海・静岡
3位	柏レイソルU-12	関東・千葉
	横浜F・マリノスプライマリー	関東・神奈川

TikTok
「JA全農チビリンピック」
https://vt.tiktok.com/ZSdQFdwMR/

YouTube配信
サッカーキング(決勝)
https://www.youtube.com/watch?v=Tpg4XXcruMU
日刊スポーツ(準決勝・決勝)
https://m.youtube.com/playlist?list=PLQ0LcmEZrDbWg-O_JtmpuV_M2bKP-Fba5

賞品提供
全国農協食品㈱、全農パールライス㈱、JA全農青果センター㈱、JA全農たまご㈱、JA全農ミートフーズ㈱、全農チキンフーズ㈱、協同乳業㈱、全農神奈川県本部

JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

あぐラボショップ

MISOVATION(ミソベーション)は、栄養士が開発した完全栄養のみそ汁です。「日本人の食事摂取基準」に基づき、1食に必要な31種類の栄養素をバランスよく摂取することができます。具材は8種類の野菜や豚肉をぜいたくに使用し、おいしさと栄養価を維持するため瞬間冷凍してお届けします。

みそは日本各地のみそ蔵と連携し、さまざまな種類を使用しています(注文ごとに、みその種類が異なる場合があります)。

手間いらずの1杯で、心も体も満たすMISOVATIONを始めてみませんか。

完全食味噌汁MISOVATION4食セット……4232円(税込み)

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会 2022年(令和4年)5月30日発行(毎週月曜日発行)
第3395号 編集・発行人／広報・調査部 新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル TEL03(6271)8055

『JA全農トピックス』のツイッターはこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋 になります。